



5400発が打ち上げられた水見市の富山新聞花火大会
＝同市の水見漁港（多重露光）

大空高く参上

氷見で富山新聞花火

5400発

富山湾染め

富山県内最大規模の五千四百発が、市民の歓声とともに富山湾の夜空を彩った。第三十六回ひまつのファイナルを飾る富山新聞花火大会（富山新聞社主催）は三日、氷見市の水見漁港沖で開かれ、同市名誉市民の漫画家藤子不二雄（氏）元富山新聞記者（忍者ハットリくん）花火や、家族や友人へのメッセージを添えたみんなの花火など、随所に散りばめられた郷土愛、家族愛が観客の心を包んだ。

【14面に関連記事】

花火大会は「ひままファイアー」では開幕の心意気をテーマを飾る15号玉が大音響に四場面で構成され、観客からどよめき、北陸唯一の花火製り、観客からどよめき造会社「北陸火工」が起った水見市園で4、5、7、10号玉がほく市が、海上の水見の会社員間谷一さん連続して打ち上げられ、十連の白輪から打ち上る。今年は解説を、た、忍者ハットリくん

「エキサイティング」が、東海哲朗さん（西）は「変化に富んだ花火が美しかった。約三十年ぶりに祭りを楽しめた」と堪能した様子だった。

「ザファイアーミュージカル」では、北京五輪のテーマ曲に合わせ、星空にハットリくんを表現する花火もあり、

実家に帰省していた埼玉県川口市の会社員東海哲朗さん（西）は「変化に富んだ花火が美しかった。約三十年ぶりに祭りを楽しめた」と堪能した様子だった。

「ザファイアーミュージカル」では、北京五輪のテーマ曲に合わせ、星空にハットリくんを表現する花火もあり、

メッセージ 光に家族愛、郷土愛託す



五年の関加奈子さんは「きれい」と見とれた。団交「ファイアーオン」では、静岡ザウオーターでは、静岡水上スターマインに続き、10号玉二十連発と見市15号玉の大輪で締めく、本部